

● 教室(診療科)の特色 ●

形成外科は近年になり急速に発達した学問で、現在も発展し続けています。

新しいアイデアと発想でまったく新しい術式が生み出され、それがスタンダードな術式に成り代わる可能性を秘めています。また患者さんによって症例が1例1例異なるので、その人にあった一番よい方法を熟考しなければなりません。現在は患者さんが医師の技量と人柄を見て、受診をする時代です。

その期待に応えるため、医師は常に自分の技術を磨き、患者さんに合った最良の方法を考え、さらに優れた新しい治療方法を考える想像力を養うことが必要とされています。

このような自由な発想は、いろいろなジャンルの本を読んだり、いろいろな職種の人と話をすることによって培われ、アイデアも浮かびます。また、国際学会で研究成果を発表することも多いので、広い世界を意識してほしいと思います。



上田 晃一(うへだ こういち)教授(科長)

■ 専門分野

頭蓋顎顔面外科、マイクロサージャリー、唇顎口蓋裂、ケロイド・肥厚性瘢痕

■ 職歴

昭和34年 12月生まれ

昭和59年 大阪医科大学卒業後、大阪医科大学形成外科学教室(田嶋定夫教授)に入局、臨床研修開始

昭和61年 高知県近森病院で外科と救急医療研修(2年間)

平成 元年 埼玉医科大学総合医療センター形成外科、マイクロサージャリーの研修(2年半)

平成11年 英国Oxford大学Department of Human anatomy & Geneticsに 留学(1年間)

平成12年 大阪医科大学助教授(形成外科学教室)

平成16年 大阪医科大学教授

■ 主な学会/専門医資格

日本形成外科学会(形成外科専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医)、小児形成外科分野指導医、日本頭蓋顎顔面外科学会(専門医)、日本手外科学会専門医、日本マイクロサージャリー学会、日本美容外科学会、日本抗加齢医学会、日本創傷外科学会、国際顎顔面外科学会(Associate Member)、日本形成外科手術手技学会理事長、日本口蓋裂学会理事、国際マイクロサージャリー学会(Active Member)

■ 研究課題

抗接着分子抗体を用いた皮弁の再灌流障害の防止および同種皮弁移植の拒絶反応の抑制
ケロイド・肥厚性瘢痕のエネルギー代謝、遊離筋弁移植による顔面表情筋の機能再建
唇裂外鼻変形の治療

● 教室(診療科)の概要・特徴 ●

形成外科は、皮膚をはじめとする軟部組織や骨組織を含めた顔面全域など広い範囲を対象とする診療科です。

大阪医大では、顔面外傷、顔面骨骨折、頭蓋顎顔面の先天異常や変形に対する三次元実体模型、三次元画像を用いたシミュレーション手術、唇顎口蓋裂に対する総合的治療、外傷や悪性腫瘍切除による組織欠損やマイクロサージャリーによる治療、Qスイッチアレクサンドライトレーザー、Vビームレーザーを用いた各種あざの治療を積極的に行っています。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	参加学会
岡田 雅(准教授)	形成外科専門医	日本形成外科学会、オンコプラスチック学会ほか
塗 隆志(講師)	形成外科専門医、小児形成外科分野指導医、皮膚腫瘍外科指導専門医	日本形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会ほか
廣田友香(講師(准))	形成外科専門医、小児形成外科分野指導医	日本形成外科学会、日本口蓋裂学会ほか
光野乃祐(助教)	形成外科専門医、小児形成外科分野指導医	日本形成外科学会
大槻祐喜(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会、オンコプラスチック学会ほか
岩永紘征(助教)	形成外科専門医	日本形成外科学会、日本マイクロサージャリー学会ほか
原 舞(非常勤)	形成外科専門医	日本形成外科学会、美容外科学会ほか

■連絡先：大阪医科大学形成外科学教室 TEL:072-683-1221

■ホームページ：<http://www.osaka-med.ac.jp/deps/pla/> <http://www.anti-agings.org/>

初期研修プログラムの特徴

形成外科は、年間入院手術 500例、外科手術 1,200例と豊富な症例数を有しています。先天異常、顔面外傷、再建を含めて形成外科学全般に関して幅広い専門研修を受けることが可能です。

形成外科の初期研修は、形成外科学全般の知識と臨床能力および技術を修得することを目的とし、形成外科領域のいかなる分野の診療、手術技術においても習熟した形成外科専門医の育成を目的としています。

当科の特徴

1. 唇裂口蓋裂

出生前診断にて唇裂と診断された胎児の母へのカウンセリングから成長に応じた手術まで長期にわたり患者との関係を重視した治療を行っています。唇裂特殊外来では言語療法士外来も併設しており、言語機能発達に合わせた治療を行っています。

2. 乳房再建

近年乳がん切除後の乳房再建術は需要が高まっており、大阪医科大学および連携施設においても皮弁や人工インプラントを用いた再建術を行っています。また近年では、再建の質を高めるために3Dカメラを用いた術前シミュレーションを行っています。

3. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合

顕微鏡を用いて径0.5mmほどのリンパ管と静脈の吻合を行うリンパ管静脈吻合術は、スーパーマイクロサージェリー技術を用いて行われます。乳癌や婦人科疾患の手術後や外傷などで発症する上肢や下肢のリンパ浮腫に対して手術が行われ、院内だけでなく他院からの紹介も多く、良好な成果を上げています。大阪医科大学では理学療法を目的としたリンパ浮腫看護外来も併設しており、保存的治療から外科治療まで幅広く行っています。

4. 小耳症外来

小耳症に対して、肋軟骨を用いた耳介形成術を行っています。また、耳鼻科と共同で聴力の改善が見込まれる症例に対しては同時に鼓室形成術もおこない、整容面と機能面を考慮した治療を行っています。

5. 頭頸部再建やフットケアなどのチーム医療

複数の診療科と合同で治療を行うチーム医療において、当科は再建外科としての重要な役割を担ってきました。頭頸部領域では30年以上前から、耳鼻科、脳外科、食道外科と協力して悪性腫瘍の治療を行っています。また、他科や地域医療と連携が必要なフットケアにも力を入れています。

6. 難治性潰瘍における創内持続陰圧洗浄療法

2004年より局所陰圧閉鎖療法に持続的な洗浄機能を付加した創内持続陰圧洗浄療法を開発し、豊富な経験と数多くの論文を発表しています。主に難治性潰瘍(縦隔洞炎、褥瘡、下腿潰瘍など)に対して本法を施行しており、その治癒率は飛躍的に向上しています。



さらに開放骨折の初期治療や脳外科領域の感染などに対しても臨床応用しています。

7. レーザー治療

小児を中心にあざや血管腫に対してレーザー治療を行っております。広範囲のものに対しては全身麻酔下に施行しています。

8. 頭蓋縫合早期癒合症

頭蓋縫合早期癒合症に対して、脳神経外科と合同で頭蓋形成術を行っており、県外からも患者様が来院されています。

また、専門研修プログラムでは地域医療の研修が可能です。具体的な到達目標を以下に示します

研修内容と到達目標

<1年目>

- 形成外科入院患者を、主治医の指導のもと診療する。
- 形成外科疾患全般の病態を把握し、的確な診断、治療計画、症例のプレゼンテーション、手術計画を行う。
- 各疾患に対する画像診断を含めた術前準備、術後管理方法を修得する。
- 形成外科疾患における処置を修得する。

<2年目>

- 形成外科疾患の各分野についての病態、診断、治療についての知識を深め、手術手技を身につける。
- 各症例の問題点を的確に指摘し、適切な手術計画、術後管理方法について提示できる。
- 全層、分層の皮膚採取、自家骨採取、筋膜採取を行う。
- 1年目の指導を行い、各疾患への理解を深めるとともに、自身の1年目で修得した診断、治療の技術の習熟につとめる。

週間スケジュール

月曜日	病棟回診、外来診察 合同手術(頭頸部再建、乳房再建)、病棟にて患者診察
火曜日	形成外科メインの手術日 術前術後カンファレンス
水曜日	手術、合同手術(乳房再建) 病棟にて患者診察
木曜日	形成外科メインの手術日 レーザー治療 術前術後カンファレンス
金曜日	外来診察 病棟にて患者診察
土曜日	手術または外来診察 病棟にて患者診察

後期研修プログラムの特徴

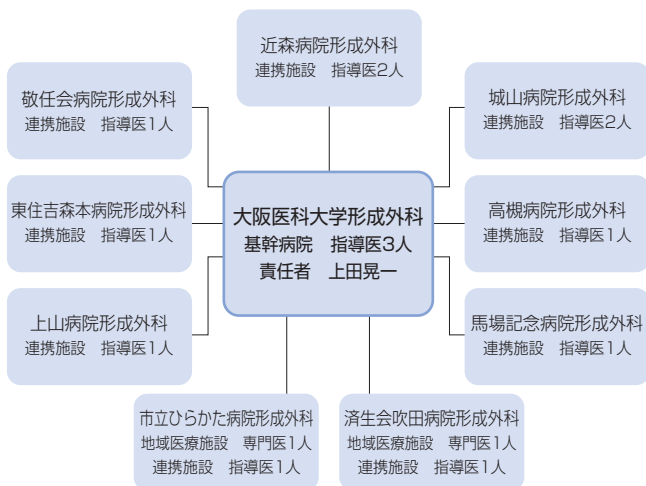
日常の臨床から得られる、様々な問題点から発展した臨床研究を積極的に企画し、実践する能力を身につけることができる研修システムを構築しています。具体的には、①学会報告や症例報告、②臨床研究から論文作成、③当科と連携を深めている形成外科疾患研究における基礎リサーチへの参加、などがレジデント研修期間に可能です。

研修プログラム

<研修施設群>

大阪医科大学形成外科の後期研修プログラムの研修施設は、大阪医科大学形成外科(基幹施設)、近森病院形成外科、市立奈良病院形成外科、彩樹守口敬任会病院形成外科、済生会吹田病院形成外科の5つである。教育関連施設は、城山病院形成外科、東住吉森本病院形成外科、市立ひらかた病院形成外科、高槻病院形成外科、馬場記念病院形成外科、上山病院である。以上の施設には形成外科認定医が在籍しているため、形成外科認定医の指導の下で修練を行なうことができる。形成外科専門医の修練として重要な期間を送れるように指導体制も整えている。

ただし、関連病院での修練開始時期、修練期間については、個々の状況に応じて調節する。



国際学会 in Oxford



研修風景

研修内容と到達目標

- 3年目までに修得した知識と技術を元に、手術を計画、施行を行う。技術、知識の修得度に応じて症例に対する手術を行う。
- 主治医とともにまたは主治医として、手術計画、術後管理を立案し、実施する。
- マイクロサージャリーによる神経縫合
- 皮弁術のドナー閉鎖
- 良性腫瘍の切除、植皮等による再建術(指導医のもと)
- 入院中のみならず退院後の外来診療を合わせて行う。
- 大学のみならず連携施設での研修を行う。
- 経験した症例について学会発表を行い、論文作成を行う。
- 学会、研究会で発表を行い、論文作成を行う。

評価方法

「形成外科専門医受験資格」の基準症例を用いて、形成外科疾患の受け持ちが万遍なく行われているかどうかを基準に行う。また、術前術後カンファレンスでの発表内容からも合わせて検討する。なお、形成外科専門医の取得には、形成外科の臨床に基づく論文発表が義務づけられているので、できるだけ多くの症例を経験して、学会発表、論文発表に努める必要がある。



取得できる認定医・専門医

日本形成外科学会専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会専門医
日本レーザー学会専門医、創傷外科学会専門医
褥瘡学会専門医、日本皮膚悪性腫瘍学会専門医
日本形成外科学会小児形成外科分野指導医
日本形成外科皮膚腫瘍外科指導専門医

参加学会等

日本形成外科学会／日本頭蓋顎顔面外科学会
日本マイクロサージャリー学会／日本口蓋裂学会
日本シミュレーション外科学会／日本熱傷学会
国際マイクロサージャリー学会／国際頭蓋顎顔面外科学会
創傷外科学会／日韓形成外科学会／日本手外科学会
日本リンパ学会／日本リンパ治療学会

大学院における研究活動

教室独自の研究

- ケロイド・肥厚性癬痕のエネルギー代謝
- 静脈皮弁のdelayに関する研究
- 顔面骨折の固定における力学的解析
- 三次元モデルを用いた頭蓋顔面骨切り術のシミュレーション手術
- 三次元解析ソフトを用いた各種計測
- リンパ浮腫の解析
- 眼瞼下垂におけるMuller筋の変性に対する研究
- 一眼レフ3Dカメラの臨床応用
- AR技術を活用した手術時情報共有システムの開発

本学での共同研究

- 薬理学教室
W9ペプチドと幹細胞を用いた新しい骨再生治療の開発
- 生理学教室
ノックアウトマウスを用いた発毛の研究および腫瘍免疫の研究
- 解剖学教室
ケロイド増殖におけるオートファジー効果の研究

他大学との共同研究

- 東京医科歯科大学歯学部分子発生学教室
頭蓋縫合早期癒合症の発生メカニズムおよび治療

先輩レジデントのコメント

荻野 真梨子 平成29年度レジデント

確かな技術を基に、症例毎に創意工夫できる

形成外科は頭の前から足の先まで、子供から大人まで対象は多岐にわたります。

私は学生時代に乳頭再建をみてから、形成外科に興味があったため、初期研修を2年過ごし形成外科を選んだことは自然なことだったように思います。

出身大学ではありませんが、縁あって大阪医科大学が症例が豊富であること、学会発表など学術的にも活発であることなどを知り、初期研修2年目の7月に見学させていただきました。その際見た小耳症の手術に感銘を受け、また医局の活発な雰囲気の後押しされ入局を決めました。

形成外科医として大学病院で過ごしたこの最初の一年は、大変有意義で今後の基盤となる大切な一年であったと思います。三つのグループをローテーションすることで、症例を満遍なく経験でき、知識や技術を学ぶことができました。カンファレンスでも上級医の先生方にしっかりとフィードバックをしていただけます。また、学会発表に関しても、沢山の機会を与えていただき、発表に際しては綿密にご指導いただき、大変勉強になりました。

女性としての働き方についても、とても理解のある医局であり、子育てしながら働かれている先輩の姿はとても勉強になります。

迷ったら是非、一度医局の雰囲気をつかみに見学に来てみてください。

千田 恵理奈 平成29年度レジデント

幅広い症例を経験し、一歩ずつ確実にステップアップできる

私は初期研修の頃に、最もワクワクしてどうやるのか想像もつかないような手術が行われていた形成外科に興味を抱きました。一方で、興味はあっても自分には独創性がないから無理かもしれないという思いがあり、最後まで進路を悩みました。期限の直前まで悩み尽くしましたが、大阪医大の医局説明会で、どんな複雑な手技もひとつひとつ基本の手技が積み重なって

階段を登っていくようにできるようになるとの話を聞き、勇気を出して形成外科医としての一歩を踏み出しました。

実際に入局してみると、手術での発想や応用力は、決して奇抜な発想ばかりではなく、他の科と同様、知識や基本的手技の上で生まれてくるものであり、ひとつひとつのステップや手技を学ぶことで、一歩ずつ確実にステップアップしていける科だと感じます。大阪医大では扱う症例の幅が広く、多くの症例を偏りなく経験し学ぶことができます。また、カンファレンスでレジデントが症例提示する術前検討や術後報告では、それぞれの症例に対する知識をまず自発的に深め、フィードバックで諸先輩方の知識や手術の工夫を学ぶことができます。医局の雰囲気はアットホームで、他大学出身の私も全く垣根を感じることなく日々過ごしており、教育熱心な先生方も多く、質問もしやすいです。

形成外科に少しでも興味のある方はぜひ一度見学にいらしてください。

東野 えりか 平成29年度レジデント

女性も働きやすい環境

私は他県の形成外科に在籍後、出産を期に臨床から離れていました。再び形成外科を志したいと思い地元関西での就職活動を始めました。子持ちであり、ブランクもある等の経歴での就職はなかなか難しかったのですが、上田教授をはじめとする先生方に受け入れていただき入局する事ができました。

当医局は女性が約半数を占め、関連病院勤務や大学院に関しても個人の状況に応じて提案して下さいます。子育てをしながら専門医を取得されている先生もいらっしゃいますし、女性が働きやすい環境だと思います。また先生方は優しく親切な方ばかりで、病院見学の時から親身になって話を聞いていただきました。

仕事面では手術はもちろんの事、学会発表や論文投稿、最近は他科との勉強会を開催するなど知識を増やす機会がたくさんあります。忙しくも学ぶ事の楽しさを日々実感しています。皆さんと一緒に形成外科の魅力に触れてみませんか。

興味のある方はぜひ一度、見学や説明会に足を運んでみてください。

横山 萌加 平成29年度レジデント

創造性や技術を活かしQOLの向上を目指す

大阪医科大学形成外科に入局し、1年が経とうとしています。

わたしが形成外科に興味を持ったのは、もともとものづくりや芸術が好きだったこともあり、見た目に関わる科で学んでみたいと考え、初期研修で選択したことがきっかけでした。

体表の疾患を多く扱う形成外科は、目に見えるかたちで結果が残るところ、一人ひとりのからだの構造によって創意工夫を加え、同じ疾患でも同じ手術はないクリエイティブさに惹かれ、入局に至りました。

大阪医科大学形成外科での症例は、多く、幅広く、そして創造的で、おもしろさと同時に大きな不安も感じていました。

後期研修が始まってからは、多岐にわたる症例に戸惑うこともありましたが、上級医の手厚い指導と、勉強しやすいよう工夫されたプログラムのもとで充実した毎日過ごしています。

入局1年目では4ヶ月ごとに3つのグループをローテーションし、それぞれの上级医の専門分野の症例を集中的に経験することで、効率よく学ぶことができました。

またカンファレンスでの術後報告、抄読会など、経験した症例、得た知識をアウトプットし、上级医からフィードバックを頂く機会も多く用意されており、ひとつひとつの症例を掘り下げて考察することができることも良かったです。

形成外科は扱う症例の幅広さから、病院・医局によっても扱う症例の割合や研修内容が大きく異なりますので、ぜひ見学に来ていただき、実際の症例や医局の雰囲気を知っていただければと思います。